別記様式第４号（その２）

教　育　研　究　業　績　書

令和　5年　4月　1日

氏　名　　岡崎　満希子

研究分野	研究内容のキーワード
心理学、教育学	発達心理学、言語発達学、発達障害、特別支援教育

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
①　実践的講義～子どもとの実際の関わりを通した学び	平成31年4月～令和4年3月	子どもの発達とそのアセスメント、支援方法に関する講義において、実際に子どもとその保護者に来校いただいた。学生は、子どもへの発達検査や遊び、保護者面接を通してアセスメントしたり、支援方法を考えたりすることを体験する。これらを通して子どもの発達状況を把握する力を養うとともに、保護者支援についても学ばせることが可能となった。
②　地域連携による教育実践	平成26年4月～令和4年3月	地域との連携に基づいて、保育園や児童発達支援事業所へ体験実習を実施したり、地域の子どもとその保護者を大学に招き、直接の関わりを通して体験的に学ぶ機会も作ってきた。
③　アクティブラーニングによる教育実践	平成26年10月～現在	講義への主体的な参加を促すため、グループディスカッションを積極的に取り入れている。そこでは、学生が互いに意見を交換し、考察を深められるよう教員がコーディネートすることによって、より良い学びとなるよう支援している。
2　作成した教科書、教材		
①　視聴覚教材～乳幼児の発達学習用	平成31年4月～令和4年3月	子どもが遊ぶ様子や検査を受けている様子を撮影した教材を4種類作成した。子どもの発達を把握し、関わりを工夫するためにどうすれば良いか、学生が段階を追って学べるよう工夫した。
②　パワーポイント形式による授業資料の作成	平成26年4月～現在	講義では、既存の教科書だけでなく、自身で最新の情報を盛り込んだパワーポイントを用いている。
③　自主学習用教材	令和4年4月～現在	講義を受講後に学生自身が取り組むための、マーク式テスト教材である。各自が講義の理解度を確認できるように工夫したもので、講義の復習となるだけではなく、次回の講義理解にも役立つものとした。

３　教育上の能力に関する大学等の評価		
白鳳短期大学	平成 28 年 4 月 平成 30 年 4 月	講師、主任に昇格 准教授、専攻科長に昇格
大阪保健医療大学	平成 31 年 4 月	准教授職に就任
大和大学	令和 4 年 4 月	教授職に就任 上記いずれの大学においても、子どもの発達領域に関する業務（講義、演習、実習、国家試験対策、就職関連、教務等)全般を任されてきた。
桃山学院大学	令和 4 年 4 月～現在	教育職員養成課程の必修科目「心理学 A」「心理学 B」の講義を担当している。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
①　乳幼児の精神発達とその支援	平成 14 年 4 月～現在	地方自治体における母子保健事業である１歳６か月児健康診査、３歳児健康診査等における発達相談を通して、家族支援に携わるとともに、幼稚園・保育園・療育施設との連携、巡回指導、親子教室の運営にも携わってきた。このような経験をもとに、子どもの精神発達、特に発達障害について、そのメカニズムを明らかにするとともに、発達のアセスメントや支援方法についても研究対象としている。
②　学校教育への支援	平成 29 年 4 月～現在	特別支援学校（視覚支援学校）外部専門家として、学校教育に携わってきた。そこでは、幼稚部から高等部の児童、生徒まで、多様な発達段階と発達特性に応じた支援を行うことが求められる。こうした経験をもとに、現在、「チームとしての学校」の一員としてそれぞれがその専門性を発揮しながら協働するには、どのようなことが求められるか研究を進めている。
③　実習指導	平成 26 年 4 月～現在	実習の事前指導及び事後指導、さらに実習施設巡回指導等を行っている。そこでは、直接現場で指導いただく先生方と緊密に連携しながら、学生一人一人が確かな知識と技能、さらに現場を担う意識を身につけることができるよう指導している。

氏名　岡崎

④ 国家試験対策	平成 26 年 4 月 ～令和 5 年 3 月	学生一人一人の学習状況に合わせて指導方法を工夫しながら、コースの学生全員が国家資格を取得するという目標に向けて指導してきた。特に、成績の伸び悩む学生についてはグループ指導や個別指導を実施し、学生の国家試験合格に貢献した。
5　その他 ① 学位論文指導	令和 4 年 4 月 ～令和 5 年 3 月	学士論文指導

職務上の実績に関する事項		
事　　項	年　月　日	概　　要
1　資格、免許 ① 幼稚園教諭一種 ② 小学校教諭一種 ③ 言語聴覚士 ④ 臨床発達心理士 ⑤ 公認心理師	 平成 3 年 3 月 平成 3 年 3 月 平成 14 年 5 月 平成 26 年 4 月 平成 31 年 2 月	 免許状（平二幼一め第一二一号） 免許状（平二小一め第三七五号） 登録（第六四五八号） 登録（第 03630 号） 登録（第 6587 号）
2　特許等 なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項 ① 母子保健事業（乳幼児健康診査）における発達相談、親子教室運営、地域連携等（高槻市、池田市、茨木市）	 平成 14 年 4 月 ～平成 26 年 3 月	 地方自治体における母子保健事業である、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、就学までの経過観察健康診査における発達相談を通して家庭支援に携わるとともに、保育園・幼稚園・療育施設との連携、乳幼児親子教室の運営にも携わった。 特に、池田市においては、1歳6か月児、3歳児相談を全ケース受け持ったことから、市内の発達障害児の早期発見早期対応に全面的に関わるとともに、要保護児童地域対策協議会にも参加した。
② 療育事業の立ち上げ、発達支援業務（高槻市）	平成 14 年 4 月 ～平成 16 年 9 月	知的障害児通園施設の立ち上げに携わるとともに、特別な支援を要する幼児への発達支援業務に携わった。
③ 児童発達支援事業における保育支援業務 （奈良県北葛城郡王寺町 社会福祉法人白鳳会）	平成 26 年 10 月 ～平成 29 年 3 月	児童発達支援事業において保育アドバイザーを務め、保育施設全体のコンサルテーションを担った。
④ 母子保健事業　発達相談員（海南市）	平成 30 年 4 月 ～令和 4 年 3 月	乳幼児健康診査後～就学前の、発達の気になる子どもについて発達検査を実施し、養育者の相談に応じるとともに、その後の処遇に関して保健師に助言を行ってきた。

氏名　岡崎

⑤ 特別支援学校　外部講師 （大阪府）	平成 29 年 4 月 ～現在	視覚支援学校において、外部講師を務め、言語発達の側面から、幼稚部～高等部の児童、生徒への指導、および教員への助言を行っている。

氏名　岡崎

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著･共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文）				
1　クンブ・ポルツェ村の小学校見聞－近代学校教育導入に関する若干の考察	単著	平成5年10月	京都大学ヒマラヤ研究会研究紀要『ヒマラヤ学誌』第４号	途上国に対する教育開発の一環として設立されたネパール山岳部の小学校でのフィールドワーク報告である。単なる調査報告を超えて地域開発と援助のあり方についても考察を加えている。
2　『教育』による人間的発達の可能性	単著	平成6年3月	立命館大学	立命館大学大学院国際関係研究科における修士論文。ネパールでのフィールドワークの成果をもとに、「開発援助」と「教育」の本質について考察した。論旨として、途上国の教育における近代化路線と、日本国内の地域主導型の教育実践を対比させ、先進国の押し付けではない自主自立型教育のモデルを提示した。
3　広汎性発達障害児の乳幼児期初期発達と療育についての一考察	共著	平成16年3月	種智院大学研究紀要第５号	主に高槻市における乳幼児健診および療育事業における臨床経験を通じて、広汎性発達障害児の乳幼児期初期発達と療育について統計的、実証的に分析し、考察を加えたものである。
4　乳幼児健康診査における心理相談と発達支援の一例	単著	平成26年1月	日本臨床発達心理士会	臨床発達心理士資格取得論文。事例検討を通して、母子保健事業の乳幼児健康診査における心理相談のあり方について考察を試みたものである。
5　乳幼児健診における発達障害の把握と支援に関する一考察	単著	平成27年3月	白鳳女子短期大学研究紀要 第９号	日本における乳幼児健康診査に関し、実務的な経験とそこにおける事例を通して、発達障害児の把握とそれに続く支援のあり方について考察したものである。
6　児童発達支援事業におけるコンサルテーションの事例から	単著	平成28年3月	白鳳短期大学研究紀要第10号	児童発達支援事業における保育コンサルテーションについて、実践経過を報告した。
7　乳幼児期における象徴遊びの発達について―「言葉」と「人間関係」の育ちのために	単著	平成29年3月	白鳳短期大学研究紀要第11号	乳幼児期における象徴遊びを軸とした象徴機能の発達について検討し、その発達的意義について考察した。

氏名　岡崎

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著･共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
8　発達上の課題を有する聴覚障害児のことばの発達とその支援に関する一考察	単著	平成30年3月	白鳳短期大学研究紀要第 12 号	聾学校に在籍する児童の約 37%に、学習面や対人面などの何らかの発達上の課題があることが分かっている。このような、発達上の課題を併せ有する聴覚障害児に対する発達評価、および支援について考察を試みた。
（その他） 「学会発表」 1　乳幼児健康診査における象徴機能の発達評価	―	平成 29 年 6 月	第 18 回日本言語聴覚学会	言語発達の基礎となる象徴機能の発達について、その評価方法を提示した。
2　言語獲得過程のアセスメント ―ことばが出ていな い子どもを支援す るために	―	令和 3 年 8 月	第 63 回教育心理学会	言葉が出ていない子どもの評価と支援方法について、特別支援学校および保健センターにおける実践を踏まえて提案した。
3　特別支援教育における外部専門家の役割～視覚支援学校での相談事例を通して考えたこと	―	令和4年8月	第 18 回日本臨床発達心理士会全国大会	特別支援教育に関わってきた経験の一部をまとめ、外部専門家が出来ることや今後の課題等について考察した。

氏名　岡崎